

<特集「情報標示の諸要素」>

タイ語の情報標示の諸要素 Markers of information structure in Thai

スニサー ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤)
Sunisa Wittayapanyanon (Saito)

東京外国語大学世界言語社会教育センター
World Language and Society Education Center, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は特集「情報標示の諸要素」(『語学研究所論集』第22号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は25個のアンケート項目に対するタイ語データを与えることである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘markers of informational structure’ (*Journal of the Institute of Language Research* 22, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Thai data for the question of 25 phrases.

キーワード: タイ語, 主語卓越型言語, とりたて表現, 不定表現, 情報のなわ張り

Keywords: Thai language, subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. はじめに

本稿では、『語学研究所論集』第22号特集「情報表示の諸要素」のアンケート項目の(1)から(25)までの例文の筆者訳によるタイ語訳を掲げ、それに適宜補足説明を加える。日本語の例文(1)に対して、異なるタイ語の語順にて、比較例示すべき複数の文が考えられる場合、(1)-1, 2...として複数の文を示している。それに加え、各例文を説明する目的で別の文を追加している場合は、(1)-a, b...として記載している。また、タイ語において同じ位置で日本語に対応するタイ語語彙が複数ある場合は、[.../...]とし、どの語彙を使ってもよいということを示す他、<..>で示したものは非表示とするが可能であることを意味している。また本稿のグロスで使用している略語については、本稿末に一覧を記載している。

2. 主題卓越型類型論の軸項について

タイ語の主題に関して最近では峰岸・スニサー(2019)が、タイ語の構文上および談話上の主題の現れ方を論じている。峰岸・スニサー(2019)は、タイ語では原則的に文頭の主語名詞句は、同時に主題機能を持ち、時空間の場面設定機能をもつ文頭の副詞句や文頭の場所を表す副詞句も主題になること、被動作者である他動詞の目的語を文頭に置いて主題化することができること、また、統語上の主題を持つ「主題卓立型言語」(topic prominent language)であるということを述べている。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

(1) 統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能

「この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。」

thíidin	phǔuum	níi	phák	plùuk	dây	dii
land.TOP	CLF	this.DEM	vegetable.SBJ	grow.TR	AUX.ABLE	well.ADV
kóləəy	nâa cà?	khăay	dây	raakhaa	phɛɛŋ	
so.CONJ	probably.MOD	sell.TR	AUX.ABLE	price.ADVC	high.ADVC	

場所を表す語 *thíidin* 「土地」を文頭にし、類別詞 *phǔuum* と指示詞 *níi* 「この」によって特定することで、特定された具体的な「この土地」に関する叙述となり、主題となっている。*plùuk* 「育てる」は動詞単独では他動詞として使用されるが、*plùuk dâi dii* となると「よく育つ」の意味となり、自動詞的用法となる。2文目の「だから高い値段で売れるだろう」には明示的な主語が生起しないが、1文目の主題として提示されている「この土地」が2文目の主題としても機能しており、動詞 *khăay* 「売る」は主題である「この土地」に関する叙述となっている。

(2) 話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外、統語的軸項としての機能

「私は頭が痛い。だから今日は休む。」

chán	pùat	hǔa	wanníi	kóləəy	yùt
SBJ.PRN.F.1	hurt.TR	head.BDYP	today	so.CONJ.RES	take rest.INTR

本例文については、日本語では二重主語の構造となっているが、本例文では二重主語として訳出することはできない。タイ語の自発性の動詞を含む感覚表現では、Sは感覚の経験者を、Oは感覚刺激の源、場所 (locus of stimulus) を表す。タイ語のSVO構文は、他動詞性を表すための専用の構文ではなく、一時的(非恒常的)な感覚を表すような感覚表現にも用いられる(峰岸 2012)。2文目は明示的な主語が生起しないが、1文目の主題「私」を照応する。

但し、同じ知覚・感覚動詞でもタイ語では、(2)-aのように、「名詞1+名詞2+状態自動詞」といった、二重主語構文となるものもある。この点については、今後さらに検討が必要である。

(2)-a.

chán	khăa	chaa
SBJ.PRN.F.1	leg.SBJ	numb.STAT

私は足がしびれた。

3. タイ語のとりたて表現について

(3)限定

「あの人だけ、時間通りに来た。」

(3)-1.

maa	taam	weelaa	[tɛɛ/phiãŋ/khêe/phiãŋ khêe/khêe phiãŋ]	khon	nán	<tháwnán>
come.DIR	follow.TR	time.OBJ	only	person.SBJ	that.DEM	only

タイ語の基本語順とは異なり、主語となる「あの人」が述語の後に来ている。*tɛɛ*, *phiãŋ*, *khêe*, *phiãŋ khêe*, *khêe phiãŋ* とも、とりたてられる対象 *khon nán* 「あの人」の前に置かれ、それらの語は置き換えが可能であるが、*tɛɛ* は口語表現、*phiãŋ* は文語表現、そして *khêe* は文脈によって「限定」に加え、「意外」、「遺憾」、「驚愕」といった話し手の主観を表すものとなる。「限定」を強調する場合は、*phiãŋ khêe* となり、*khêe phiãŋ* は「限定」

に加え、「遺憾」や「驚愕」を強調する。また、いずれの表現でも、とりたて対象語の後に *thâwnán* を併用することでの強調も可能である。一方で、*thâwnán* だけを用いた「限定」は、(3)-2 の通り語順が異なる。

(3)-2.

khon nán thâwnán maa taam weelaa
person.SBJ that.DEM only.ADV come.DIR follow.TR time.OBJ

また、(3)-a のように、*chaphóʔ* を使用し、「限定・専用」の意を示すことも可能である。但し、*chaphóʔ* は、数を対象にとりたてることは出来ない。*tèε* も同様に数をとりたてることは出来ない。数を対象にとりたてる場合、(3)-b のように *phianj* または *khêε* を使い、表すことができる。

(3)-a.

tûu níi khûm dâi chaphóʔ phúuyǐn
car.TOP this.DEM ride.DIR AUX.ABLE only woman.SBJ

この車両は女性専用車両だ。

(3)-b.

maa taam weelaa [phianj/khêε] sáam khon
come.DIR follow.TR time.OBJ only 3.NUM person.SBJ

3人だけ時間通りに来た。

(4)限定・否定との共起

「これはここでしか買えない。」

(4)-1.

níi súuu dâi [tèε/khêε/chaphóʔ/phianj] thîiníi thâwnán
this.OBJ.DEM.TOP buy.TR AUX.ABLE only here.LOC only

(4)-2.

níi nôkcaak thîiníi súuu thîiʔùtum mâi dâi
this.OBJ.DEM.TOP other than.PREP.EXCL here.LOC buy.TR elsewhere.LOC NEG AUX.ABLE

否定との共起の場合⇨「これはここ以外、他では買えない。」

このケースでは例文(1)と同様、主語が非表示化されている。(4)-1 は「限定」を意味するタイ語の語彙のみの使用で日本語文の意味を訳出しているが、タイ語で「否定」を意味する語彙も用いる(4)-2 では語順が異なる。

(5)限定・多数

「その家にいたのは子供ばかりだった。」

thîi yuu bâan lǎj nán mii [tèε/khêε/phianj] dèk
REL be in house CLF that.DEM there is only kid

関係詞 *thîi* を用いて分裂文を形成し、関係節を左方転移することで、「その家にいる」対象をとりたてるとともに、とりたて表現 *tèε* を使用し、「子供だけ」という限定要素をとりたてている。上記訳文は、その家に

唯一いるのは子供だけで同時に同類の他の要素である大人などはいないという意味とともに、「大人も少しはいた」とも解釈することも可能である。

khêe を使用する場合は、大人がいることを期待していたが、子供しかいなかったという意外の意も含む一方、phiaŋ を使用する場合は、その家に唯一いるのは子供だけで同時に同類の他の要素である大人などはいないという意味になる。数量の度合いについては、khêe, phiaŋ とともに文脈により多数とも少数ともなり得る。

なお、mii を使用したタイ語特有の存在の構文 (existential construction) の文型については、(14)に説明がある。

(6)限定・強調

「次回こそ、失敗ないようにしよう。」

(6)-1.

khraawnâa	[tɔŋ]	mây	hây	phlâat
next time.TOP	must.AUX	NEG	CAUS	fail.INTR

(6)-2.

khraawnâa	[nîi/náʔ]	càʔ	mây	hây	phlâat
next time.TOP	PTCL	AUX.VOL	NEG	CAUS	fail.INTR

タイ語では時間を示す語句は副詞と考えるが、文頭に置き主題化することが頻繁に起こる。文頭に置くだけでも「次回こそ」というニュアンスを示すが、(6)-1 のように tɔŋ を使用することで、「次回こそ、絶対に」という強い意志を表すことが可能である。また、(6)-2 のように主題マーカとなる句末小辞 nîi(峰岸・スニサー2019)または náʔ が付加されると、話し手の主観を表し、「こそ」のニュアンスが明示的になる。時間を表す語句を文頭に置くことに加えて主題マーカとなる nîi/náʔ を付加することで、副詞の主題化をより明確にしている。

(7)反限定・例示

「疲れたね、お茶でも飲もう。」

nùay	nóʔ	pay	kin	ʔaray	kan	thòʔ
tired.STAT	PTCL.COMR	go.DIR	drink/eat.TR	something.OBJ.INDF	together.ADV	PTCL.INV

疲れたね、何か飲もう/食べよう。

タイ語は日常生活ではお茶やコーヒーを飲まないため、特定の飲み物を例示するより不定の「何か」を使って反限定・例示を示している。この場合に使用される動詞 kin は「飲む」だけでなく、「食べる」の意もあるため、不定の範囲はより広範になる。

他にもタイ語では(7)-a, b で示している通り、数量を示す語彙や類別詞の前に「ぐらい」といった意のぼかしを意味する sák を置き「反限定」を表すことも可能である。

(7)-a.

kin	sák	nòy
drink/eat.TR	just.ADV	a little.ADV

少しぐらい食べなさい。

(7)-b.

maa sák khon kôo dii ná?
come.DIR just.ADV person.CLF LNK good.ADV PTCL.FOC
1人ぐらい来た方がいいね.

また, (7)-c, d で例示した通り, 情報の曖昧化を意味する ?aray yàaŋ ɲii(スニサー2017), もしくは「みたいな」といった意の ?aray tham nɔɔŋ nán を文末に置き, 「反限定・例示」を示すこともある.

(7)-c.

chôp khon yîipùn ?aray yàaŋ ɲii
like.TR person.OBJ Japan.NAME etcetera.PTCL.INDF
日本人が好きとか

(7)-d.

chôp khon yîipùn ?aray tham nɔɔŋ nán
like.TR person.OBJ Japan.NAME something like that.PTCL.INDF
日本人が好きみたいな

(8)極端・意外

「水さえあれば, 数日間は大丈夫だ。」

(8)-1.

mii khêe nám kôo yùu dâi sǎɔŋ-sǎam wan
have only water LNK live.INTR AUX.ABLE 2-3.NUM day

(8)-2.

mii nám thâwnán kôo yùu dâi sǎɔŋ-sǎam wan
have water only LNK live.INTR AUX.ABLE 2-3.NUM day

(8)-1 では khêe がとりたて対象の前に置かれるのに対し, (8)-2 では thâwnán が対象の後に置かれ, 「極端」の意を表している. なお, khêe も thâwnán も「意外」の意も有している. また, 同一文に khêe と thâwnán を同時に使用することも可能である. また, 「極端」の意をより強調する場合は yàaŋnóy 「少なくとも」を用いた(8)-3 も可能である.

(8)-3.

yàaŋnóy mii nám kôo yùu dâi sǎɔŋ-sǎam wan
at least.ADV have water LNK live.INTR AUX.ABLE 2-3.NUM day

(9)極端・意外

「小さい子供まで, その仕事の手伝いをさせられた。」

[krathâŋ/mée tɛɛ/ dèk lék kôo thùuk hây chûay thamjaan nán
mée krathâŋ]
even.PREP/CONJ/CONJ kid.SBJ small.ADJ also.LNK AUX.PASS AUX.CAUS help.TR work.INTR that.DEM

「極端」を表すとりたて表現には *krathân* 「まで」を使用するが、*krathân* の代わりに *mée tèe*, *mée krathân* 「でさえ」を使用することも可能である。いずれの表現もとりたて対象の前に来る。これらの表現に加え *kôo* 「～も」を一緒に使用することで、「意外」の意も付加される。なお、*mée tèe*, *mée krathân* については、「否定」的な意味も示すことになる。

なお、極端に多い数量をとりたてる際には、とりたて対象の数の前に *tân* を加える。

(9)-a.

<i>kháw</i>	<i>yùt</i>	<i>tân</i>	<i>sip</i>	<i>wan</i>
SBJ.PRN.3	take rest.INTR	PREPEMPH	10.NUM	day

彼は10日も休んだ。

また、この *tân* は数量だけでなく、場所などの名詞の前に置き、普通ではない特別さを示す役割も有している。(9)-b は普段どこにも出かけないような出不精の人がアメリカまで旅行に行ったことに対して発話者が驚愕していることを伺い知ることができる文である。

(9)-b.

<i>pay</i>	<i>dây</i>	<i>tân</i>	<i>ʔameerikaa</i>
go.DIR	AUX.ABLE	PREPADM	America.PLN

アメリカまで出かけられたね！

(10)反極端・低評価

「私はお金なんか欲しくない」

(10)-1.

<i>chán</i>	<i>mây</i>	<i>yàakdây</i>	<i>ŋən</i>	<i>ròk</i>
SBJ.PRN.F.1	NEG	want.TR	money.OBJ	PTCLEMPH

私はお金なんかほしくない。

(10)-1 では否定を強める *ròk* を付加することで、否定を強調するニュアンスとなり、本来価値のある「お金」というものを必要としないという「反極端・低評価」を示すことになる。

(10)-2.

<i>ŋən</i>	<i>nâʔ</i>	<i>rǎə</i>	<i>chán</i>	<i>mây</i>	<i>yàakdây</i>	<i>ròk</i>
money.OBJ.TOP	PTCL.FOC	Q	SBJ.PRN.F.1	NEG	want.TR	PTCLEMPH

お金なんか、私は欲しくない。

(10)-2 で例示しているのは、目的語となる「お金」を文頭に置き、その後に主題マーカ―の *nâʔ* を付けることで主題化しつつ、さらに疑問小辞 *rǎə* を加え疑問文とすることで、「反極端・低評価」のニュアンスをより強く示すことが可能となる事例である。

(11)反極端・最低限

「自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。」

<i>yàaŋnóoy</i>	<i>hôn</i>	<i>tuaʔeeŋ</i>	<i>chúay</i>	<i>tham khwaamsaʔaat</i>	<i>ʔeeŋ</i>	<i>dúay</i>
at least.ADV	room.OBJ.TOP	yourself	TR.IMP	clean.TR	by yourself.ADV	ADV.IMP

文頭で副詞 *yàaŋnóy* 「少なくとも」を用い, かつ目的語となる *hôn tuaʔeeŋ* 「自分の部屋」を置換し主題化することで, 「最低限」のとりたてが示されている。

タイ語では他にも「おおよそ」の意味の *raawraaw* または *pramaan* を使用し, (11)-a, b の通り「反極端」のニュアンスを示すこともある。これらの表現は本来, 数量表現の前に置き, 数量的な「おおよそ」の意味を表すものであるが, 若い世代の間では, 以下の例のように *raawraaw* や *pramaan* の後に名詞や文節を置き, 数量以外の反極端を示す事例も見られるようになっている。

(11)-a.

ʔaahǎan yǐpùn kin dây pramaan tempuuráʔ
Japanese food eat.TR AUX.ABLE ADV tempura.OBJ

日本料理は, 天ぷらぐらいなら食べられる。

pramaan がとりたてているのは, 数量的なものではなく, 名詞「天ぷら」となる。日本食が苦手な人にとって, 刺身は無理でも天ぷらなら, という食べられる受容度を示している。

(11)-b.

raawraaw wâa mây chǎp kháw
ADV COMP NEG like.TR OBJ.PRN.3

彼が嫌いって感じかな。

「彼が好きではない」ことを曖昧に示している。

(12)類似・累加

「私にもちょうだい。」

(12)-1.

hây chán dūay
give.TR.IMP OBJ.PRN.F.1 too.ADV

(12)-2.

khǎw chán dūay
want.TR SBJ.PRN.F.1 too.ADV

両文とも目的語を非表示としているが, (12)-1 の主語は対話者, (12)-2 の主語は発話者となっており, 「累加」を示すため, とともに *dūay* 「も」が使用されている。

タイ語の「類似・累加」のとりたてでは, 次の例文のように *kǎo* や *tháŋ* を使用する用法もある。

(12)-a.

muang thay kǎo chǎp muang laaw kǎo chǎp
country.OBJ Thai also.LNK like.TR country.OBJ Laotian also.LNK like.TR

タイもラオスも好きだ。

kǎo は主語または主題の後に置き, 同類のものを並べ, 「類似・累加」の意味を表す。(12)-a では主語を非表

示とし、目的語となるタイとラオスが左方転移され主題化されている。

(12)-b.

chôp tháj muan thay [tháj/lé?] muan laaw
like.TR also.ADV country.OBJ Thai [also.ADV/and.CONJ] country.OBJ Laotian
タイもラオスも好きだ。

(12)-b の例文では、tháj は名詞の前で名詞をとりたてる働きをしている。また、2 つ目以降の目的語の前にも tháj は必要となるが、接続詞 lé? 「そして」でつなぐことにより、複数のとりたて対象を 1 つの tháj でとりたてることも可能である。

(13)反類似・対比(疑問)

「お父さんもう帰って来たね。お母さんは？」

khun phô kláp maa léew nî léew khun mêe lâ?
HON father.SBJ return.DIR come.DIR ASP.ANT PTCL.EMPH and.CONJ HON mother.SBJ Q
お父さんもう帰って来たね。お母さんは？

対比接続詞 léew と疑問小辞 lâ? を一緒に用い「それで/ところで～は？」と、「反類似・対比」を示しつつ、談話上の話題の展開に用いられている。léew と lâ? は、それぞれ単独でも談話上の話題の展開のために用いることも可能である。lâ? の後は本来疑問文が続くが、非表示とすることが多い。

タイ語でのとりたて表現は、とりたてられる対象の前に置いてその対象をとりたてる語と後に置く語の両方があることに加え、それらの語を複数組み合わせることも可能である。その組み合わせによって、同じ語により、多様なとりたて表現を表すことが可能となる。タイ語の文の基本語順は、「主語+動詞+目的語」、句の修飾関係は「被修飾語+修飾語」であるが、語順が置換されることで、とりたてをする場合もある。また、文語に用いられるものと口語に用いられる語の違いもある。

4. 不定表現について

タイ語の不定表現は、言語形式や意味内容によって、1. 疑問代名詞、2. 疑問代名詞+とりたて表現 kôo 「も」の組み合わせ 3. 汎称的名詞 4. 存在の構造、5. 重複により表される。これら 1~5 の用法については、単独で使用するだけでなく、組み合わせで使用することもある。以下、アンケート項目の(14) から(22) までの例文の筆者訳によるタイ語訳を掲げ、それに適宜補足説明を加える。

(14)特定未知(specific unknown)

「誰か(が)電話してきたよ。」

mii [khon/khrai] thoo maa nê?
there is person/someone.INDF call.INTR come.DIR PTCL.EMPH

電話には出たが具体的にだれであるかを知らない場合、もしくは電話には出なかったが電話が鳴るのを聞いただけで、その人物が具体的にだれであるかを知らない場合の 2 つの状況については、タイ語では存在の構造(existential construction)の文型で表すことができる。存在の構造は、「mii +A(人)+ B(動詞)」で「Bをする A がいる」となる。一方で、話し手が実際に電話に出て、電話してきた人物が具体的に誰であるかを知っ

ている場合は、存在の構造の文型を使用せず、(14)-a のような文型となる。

(14)-a.

phôo thoo maa nê?
father.SBJ call.INTR come.DIR PTCL.EMPH
父が電話してきたよ.

(15)非現実不特定(irrealis non-specific)

「誰かに聞いてみよう。」

lɔŋ thǎam khray kan thò?
try.TR ask.TR someone.PRN.INDF together.ADV PTCL.INV

タイ語では疑問代名詞 khray 「誰」をそのまま使用し、不定表現とすることが可能である。

(16)疑問(question)

「私のいない間に誰か来た？」

mii [khon/khrai] maa chúaŋ thii chán mây yùu rúplàw
there_is [person/someone.INDF] come.DIR during.ADV REL SBJ.PRN.F.1 PTCL.NEG be here Q

(17)条件節内(conditional)

「誰か来たら、私に教えてください。」

thâa mii [khon/khrai] maa chúay bòk chán dūay
if.CONJ.COND there is [person/someone.INDF] come.DIR help.TR.IMP say.INTR OBJ.PRN.F.1 ADV.IMP

(16), (17)とも(14)で使用した存在の構造の文型となっているが、これらの例文のタイ語では汎称的名詞と疑問代名詞とも使用することが可能である。

なお、(15)は(16)と(17)のように khon 「人」を使うことも可能であるが、2つの意味の解釈が可能となる。①知らない誰かへ聞いてみる、もしくは②聞いてみる対象が人間以外へ拡大、つまり精霊や魂、神様などの中から人を選んで聞いてみるということも意味する。誤解を招く可能性もあるため、(15)のような非現実不特定文では khon の使用頻度は低い。

(18)間接(全部)否定(indirect negation)

「今日は誰も来るとは思わない。/今日は誰も来ないと思う。」

(18)-1.

wanníi mây khít wâa cà? mii [khon/khrai] maa
today PTCL.NEG think.TR COMP AUX.FUT there is person/someone.INDF come.DIR

(18)-2.

wanníi khít wâa mây mii [khon/khrai] maa
today think.TR COMP PTCL.NEG there is person/anyone.INDF come.DIR

(19)直接(全部)否定(direct negation)

「そこには今誰もいないよ。」

thǐnân	tɔnnii	mây	mii	[khon/khray]	yùu	ná?
there.LOC	now	PTCL.NEG	there is	[person/anyone.INDF]	be there.INTR	PTCL.FOC

タイ語では、間接否定も直接否定も、存在の構造と不定表現で表すことができる。間接否定も直接否定も下位節に否定を使い、存在を示す動詞 *mii* の前に否定辞をつけて表現する。但し、間接否定に関しては、(18)-1のように、上位節に否定を使う表現も可能であるが、(18)-1 では 2 つの意味を表すものとなる。第一に(18)-2と同じく「誰も来ないと思う」という未来の出来事への推測と、もう 1 つ「誰も来ないと思ったが、人が来た」と予想外の出来事を表す文と読み取ることも可能である。これは、タイ語では過去か現在か明示的な形式がないため、つまり *mây khít* は「思わない、思わなかった」との 2 通りの意味があるためである。

(20)自由選択(free-choice)

「(それは)誰でもできる。」

<nân>	khay <khay>	kôo	tham	dây
that.OBJ.DEM	anyone.INDF.RDP	also.LNK	do.TR	AUX.ABLE

(21) 自由選択を示す「みんな」

「そんなこと(は)、みんな知っているんじゃないか!?!」

rúuaj	yàaj	nán	khay <khay>	kôo	rúu	máy
story.OBJ	CLF	that.DEM	anyone.INDF.RDP	also.LNK	know.TR	Q

不定代名詞 *khay* 「誰か」、もしくは重複形である *khay khay* に加え、とりたて表現の語彙である *kôo* 「も」の組み合わせにより、(20)、(21)は訳出することができる。

(22)反語

「そんなもの、誰が買うんだよ!?! 誰も買うわけじゃないじゃないか!」

khǒŋ	yàaj nán	khay	cà?	súuu
thing.OBJ	that kind of.DEM	who.PRN.INTERR	AUX.VOL	buy.TR
mây	mii	[khay/khon]	súuu	ròk
PTCL.NEG	there is	anyone.INDF/person	buy.TR	PTCL.EMPH

反語は、疑問代名詞 *khay* 「誰」を用いて表現する。目的語 *khǒŋ yàaj nán* 「そんなもの」を主題にするため、文頭に置換されている。2 文目の「誰も」は存在の構造(existential construction)の文型を使用し、不定代名詞 *khay* もしくは汎称的名詞 *khon* 「人」のどちらも使用可能である。

5. なわ張り理論について

(23)話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内

「君は英語がうまいね。」

thəə	phaasáa	ʔaŋkɾít	kèŋ	ná?
SBJ.PRN.2	language.OBJ	English	well.ADV	PTCL.FOC

本例文では動詞が非表示となっているが、「君＝英語がうまい」という聞き手に属する情報に関する話し手の判断の共有を求めている。ná? は意見や気持ちなどを述べている発話文に付加されると、その命題内容に対して、聞き手に賛同、または感情を共有することを求める際に使用される。ná? が付加されなければ、事実や意見などを中立的立場から述べるニュアンスとなり、聞き手に対して、同意や共感も求めることにはならない(スニサー2017)。このタイ語訳文は、日本語の「直接ね形」と同様の文型であり、本例文は日本語型と言うことができる。

(24)話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内

「君は退屈そうだね。」

thəə	duu	bùa	ná?
SBJ.PR.N.2	look.TR.PASS	bored.STAT	PTCL.FOC

「聞き手のなわ張り内」であることを表すため自動詞 duu を受身的な用法で使用しており間接形となっている。「君＝退屈そう」が「話し手のなわ張り外」であるため、(23)と同様に句末小辞 ná? を用いているが、ここでの ná? は情報要求の機能を担っている(スニサー2017)。本例文も日本語型に近いものと考えられる。

(25)話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外

「明日も寒いらしいよ。」

dumúan	phrúgníi	kô	cá?	năaw	ná?
it seems.HS	tomorrow	also.LNK	AUX.FUT	cold.STAT	PTCL.FOC

「話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外」ということを示すため、伝聞を表す dumúan が用いられ間接形となっているが、英語型のように情報の入手経路を示すものではない。(23), (24)同様、本例文においても、句末小辞 ná? が使用されており、情報共有要求の機能を果たしている(スニサー2017)。

略語リスト

1	一人称	first person	INDF	不定代名詞	indefinite pronoun
2	二人称	second person	INTR	自動詞	intransitive
3	三人称	third person	INTERR	疑問代名詞	interrogative pronoun
ABLE	可能	able	INV	勧誘	invitational
ADJ	形容詞	adjective	LNK	繋辞	linker
ADM	驚嘆	admirative	LOC	位格	location
ADV	副詞	adverb	MOD	モダリティ	modality
ADVC	副詞節	adverbial clause	NEG	否定	negation, negative
ASP	アスペクト	aspect	NUM	数辞	numeral
AUX	助動詞	auxiliary	PASS	受身	passive
CAUS	使役	causative	IMP	命令	imperative
CLF	類別詞	claassifier	PREP	前置詞	preposition
COMP	比較	comparative	PRF	完了	perfect
COMP	補文マーカー	complementizer	PRN	人称代名詞	personal pronoun
COMR	確認要求	confirm and request	PSN	人名	person name
COND	条件	conditional	PTCL	小辞	particle
CONJ	接続詞	conjunction	Q	疑問小辞	question particle
DEM	指示詞	demonstrative	RDP	重複形	reduplicated form
DIR	方向動詞	directional	REL	関係詞	relative
EMPH	強調	epenthesis	RES	結果	resultative
F	女性	feminine	STAT	状態	stative
FOC	焦点	FOC	TMP	時間	temporal
FUT	未来	future	TOP	主題	topic
HON	敬称	honorific	TR	他動詞	transitive
HS	伝聞	hearsay	VOL	意志	volitional

参考文献

- 峰岸真琴. 2012. 「タイ語の知覚・感覚・感情表現」『日本語学会第144回大会予稿集』, pp.28-33.
- 峰岸真琴. 2019. 「タイ語のとりたて表現」『日本語と世界の言語のとりたて表現』(野田尚史(編)), くろしお出版, pp.129-144.
- 峰岸真琴・スニサー ウィッタヤーパンヤーノン. 2019. 「タイ語の主題とその談話での現れ方について」『言語の類型的特徴対照研究会論集』第2号, pp.111-135.
- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン. 2017. 「タイ語話し言葉コーパスから見た「語用論的終結小辞」」『アジア・アフリカ言語文化研究』94号, pp.111-136.

執筆者連絡先 : sunisa@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2019年12月25日